

総合閉会式

🍊 **開催日** 令和6年10月22日(火) 福祉祭とっとり大会
 🍊 **会場** とりぎん文化会館（鳥取県立県民文化会館）梨花ホール

総合閉会式



荒天のため総合閉会式に参加できなかった、鳥取市内の幼稚園・こども園・保育園園児達による健康体操『咲花笑』の披露や、映像による鳥取県立鳥取商業高等学校吹奏楽部のマーチング演奏をお届けした後、総合閉会式は幕を開けました。

メインアトラクションでは、総合閉会式の流れを受けてねんりん世代の夫婦が再登場し、4日間の大会の成果を、地元高校生たちの生の歌声と「大会メモリアル映像」と共に振り返りました。大会を支えてくれたボランティアや、大会に参加した選手にインタビューし、思い出や印象に残ったエピソードを会場全体で分かち合った後、夫婦が星空やジビエといった鳥取の魅力を紹介して、にぎやかなムードで式典に繋げました。

式典では、本来総合閉会式で地元小学生が手に持って選手団と一緒に進行する予定だった、手作りの選手団毎の横断幕を、ボランティアがお披露目しながら選手団代表入場が行われました。その後は主催者を代表して、大会会長の平井伸治鳥取県知事、田中誠二厚生労働審議官があいさつしました。

その後、次期開催地の岐阜県に大会旗が引き継がれ、大森康宏岐阜県副知事から「ねんりんピック岐阜2025」への抱負が述べられました。続いて、次期開催地アトラクションとして、岐阜県郡上市の夏の風物詩であり、ユネスコ無形文化遺産に登録されている「郡上おどり」が披露され、岐阜県での大会開催をPRしました。

グランドフィナーレでは、倉吉市出身のソプラノ歌手佐々木まゆみさんと、境港市出身のバス歌手小鉄和広さんをソリストに迎えました。総合閉会式で登場した大國主命と八上姫も再登場し、鳥取県合唱連盟のもと、高校生からねんりん世代まで、あらゆる年代で構成されたコーラス隊や、鳥取県手話サークル連絡協議会による手話コーラス隊、そしてそれまでの出演者や登壇者全員がステージに登場して、徐々に重なりながら、選手や観客とともに鳥取県ゆかりの曲「ありがとう」を大合唱し、会場全体が感動に包まれる中で総合閉会式は終了、4日間の大会は幕を閉じました。

プログラム

式典前アトラクション

- みんなで健康体操
- 鳥取県立鳥取商業高等学校吹奏楽部マーチング演奏（映像）

〈開式通告〉

メインアトラクション

- プロローグ「回想：ねんりんピックとっとり大会」
- 第1幕「大会を支えた人々」
- 第2幕「楽しかった思い出の共有」
- 第3幕「鳥取の魅力紹介」

式典

- 選手団代表（旗手）入場
- 主催者代表挨拶
 - ・ 大会会長（鳥取県知事）
 - ・ 厚生労働審議官
- 登壇者紹介
- 大会旗引継ぎ
- 次期開催地代表挨拶

次期開催地アトラクション

- 郡上おどり

グランドフィナーレ

- 合唱「ありがとう」

〈閉式通告〉

会場おもてなし



第1編

第6章

式典前アトラクション



【映像プログラム】



メインアトラクション

🍊 開式通告



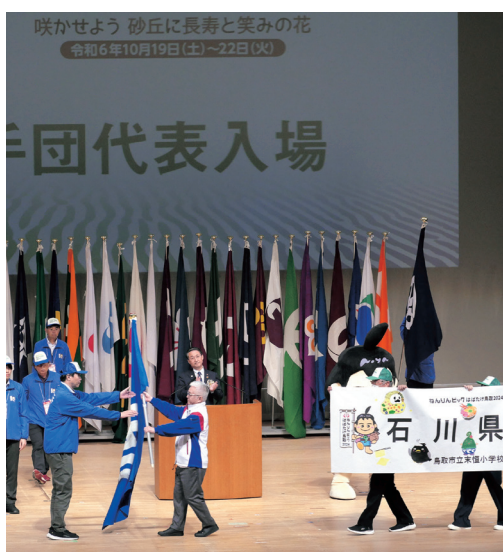
【メモリアル映像】





式典

選手団代表(旗手) 入場



● 主催者代表挨拶



鳥取県知事
平井 伸治

「ねりんピックはばたけ鳥取 2024」は、皆様のお陰で、このようにつつがなく終了の時を迎えることができました。本当にありがとうございました。

本大会を共に主催、共催していただきました、厚生労働省田中審議官、長寿社会開発センター高井理事長、またスポーツ庁中村課長をはじめ、政府や関係者の皆様方、そして何より、こうして今日もお集まりいただいております選手の皆様、また各地の指導者、役員、応援団の皆様、本当にありがとうございました。

皆様方のお陰で、大変に思い出の多い大会となりました。

また、この大会に向けて、地元でも、皆様をお迎えしようと、「ようこそ ようこそ」の思いで努めさせていただきました。市町村及び競技団体の皆様、また、地域の皆様、ボランティア、学校の子供達、様々な関係団体、本当に多くの皆様にご協力をいただきました。ありがとうございました。

そして、あの豪雨からひと月、また地震から10ヶ月。石川県の皆様は、力を込めて、この大会に臨んでいただきました。その思いは全国にも届いたと思います。会場では、石川を応援しよう、能登を応援しようという志が集まりました。これからも私たちは、全国心一つに、石川の被災地からの復興をみんなで応援し、実現していきたいと思います。

今回、皆様もいろんな出会いがあったと思います。「食パラダイス鳥取県」の食べ物はいかがでしたでしょうか。砂丘や大山、また、選手団入場の際に「名探偵コナン」の歌や水木先生の「ゲゲゲの鬼太郎」の歌が流れましたが、まんが王国とっとりもお楽しみいただけましたでしょうか。

先程、客席から鳥取大会の思い出をお話いただきました和歌山県の榎本さんのお話にありましたが、境港はカニの水揚げ量日本一の漁港であります。本当は蟹汁もあったのですが、蟹汁には出会われなかったようですが、イワシのつみれ汁、なかなか通のものを召し上がっていただいたようであります。実は、イワシも鳥取県、ブイブイ言わし(イワシ)ております。

皆様にはいろんな鳥取との出会いを果たしていただけたかなと思うわけであります。この思い出を分かち合いながら、皆様はまたひとつ、人生のステップを上がられましたし、多くの仲間を得られたと思います。また、思い出の地に鳥取を加えていただき、来年の岐阜に向けて、志も新たにされたと思います。

今日ここに閉会となりますが、皆様とのひとときの別れであり、また出会うことを楽しみにさせていただきたいと思います。

「咲かせよう 砂丘に長寿と笑みの花」

鳥取大会のテーマであります。文字どおり、県内各地に絆の花が咲き乱れるような、そんな夢のような4日間になりました。

あの「ゲゲゲの鬼太郎」を表した水木しげる先生。「ゲゲゲの女房」というテレビドラマでも有名になりました。その御夫人、武良布枝さんは、今年92歳です。本当にお元気で、毎年、ふるさと、ここ山陰に帰って来ることを楽しみにしておられます。水木しげる先生は93歳で他界されましたが、私たちは、毎年先生の誕生日を、ここ鳥取でお祝いをしており、今年は102歳

のお誕生日をお祝いしたわけであります。

「百とせのちかづく坂につき初めて今行末もかれとぞ思ふ」

これは、新古今集を編纂した藤原有家の和歌です。藤原俊成の90歳のお祝いの宴で、銀の杖を送ったという記録があります。百歳が近づく年齢の坂、それを杖をつきながらという洒落を込めて、これから行く末も、ご家族、仲間たちも含めて、今日の宴のように素晴らしいものであって欲しい、そのように藤原有家は私たちに歌を残してくださっています。

惜別のときが近づいているわけであります。

「たち別れいなばの山の峰に生ふるまつとし聞かば今帰来む」

これは、お馴染みの在原行平の歌であります。行平は、ここ鳥取市に赴任した国司でもございました。因幡、伯耆という2つの国が、この地にはあります。実は先程、メインアトラクションの劇中に「因幡の白兔」が出てきましたが「伯耆の白兔」の物語もあるんです。そういう古い国、因幡の国司になったわけですが、その行平が、「いなば」を「往なば(行ってしまおう)」と掛けているんですね。皆様もこれからまた旅立てれることになるわけですが、「まつとし聞かば 今帰来む」、私たち鳥取で待ちますと申し上げれば、また帰ってきていただく。そんなことを楽しみにしたいなと思います。

実はこの4日間、特別な4日間でもありました。紫金山・アトラス彗星が空に見える4日間だったんです。8万年のうちに1回だけ地球とこの彗星が出会うのだそうです。なぜこの期間、この大会に合わせてきたかという、ここは伯耆の国だから、ほうき星がやってきたんです。皆様との出会いも8万年に1つのような、そんな貴重な出会いだったと感謝しています。是非またこれからも、ご厚誼をいただければありがたいと思います。

でも、胸に手を当てて、よく考えてください。愛するご家族が、皆様のお帰りを、首を長くして、お待ちとは限りません。ゆっくりしていただければいいのです。鳥取県には10の温泉地があります。ですから、10泊できます。そうこうしているうちに、ハロウィンがやってきます。このハロウィンは、「鳥取はトリトリート」と呼びならわしまして、鳥取県も楽しめるところにさせていただいておりますし、11月6日になりますと、名物の松葉ガニ解禁を迎えるわけであります。そんな意味で私たちは今、「蟹取県」に絶賛改名中なわけであります。

是非また、鳥取県にお越しいただければありがたいと思いますし、もっともっとと思う方のためには、住民票の転入届を用意させていただきますので、是非お越しをいただければと思います。

今回、鳥取県の人口ぐらいの方に参集いただきまして、もったいないと思う次第でございます。お帰りになる際は、是非、お土産を。ご家族、地域の人、お待ちだと思います。「王秋梨」や「輝太郎柿」が、今、旬を迎えております。梨や柿は腰に堪えるという方には、「らっきょう」がでございます。是非、お土産にいただければと思います。

そして、何より、素晴らしい思い出をお持ち帰りいただきたいです。今大会、本当に皆様のお世話になりました。また、ボランティアなど地域の皆様にも感謝の誠を捧げたいと思います。

皆様のいやさか、そして、砂丘からの風に乗って、長寿と笑みの花が各地に届けられますことを心からお祈り申し上げます。また、私からのお礼の言葉にかえさせていただきたいと思っています。

蟹取県へウェルかに！砂丘からサンキュー！

● 主催者代表挨拶



厚生労働省
厚生労働審議官
田中 誠二

「咲かせよう 砂丘に長寿と笑みの花」のテーマのもと、4日間にわたり繰り広げられました「第36回全国健康福祉祭とっとり大会」が、大盛況のうちに幕を閉じようとしています。

全国から参加された皆様が、日頃の練習や活動の成果を十分に発揮され、多くの方々に元気と感動を与えられましたこと、主催者の一人として、深く敬意を表します。

本大会におきまして、優秀な成績を挙げられた皆様に、心からお祝いを申し上げますとともに、惜しくも入賞に至らなかった皆様にも、そのご健闘、ご努力に対し、心からの称賛をお送りいたします。

ご参加の皆様におかれましては、本大会を通じた出会いや貴重な経験が、いつまでも心に残る輝かしい思い出になったことと思います。是非、本大会の経験を活かしながら、それぞれの地域に戻られましても、益々ご活躍されることを期待しております。

また、このような素晴らしい大会を長期間に渡り準備し、大成功に導かれた平井鳥取県知事をはじめ、開催市町村、関係団体、ボランティアの皆様、そして選手の活躍に温かい声援を送っていただいた観客・ご家族の皆様など、大会を支えていただいた多くの方々に、心から感謝を申し上げます。

来年度は、岐阜県で開催されます。「清流に 輝けひろがれ 長寿の輪」のテーマのもと、大会に関わる全ての皆様が、いきいきと輝ける大会となることを期待いたします。

結びに、鳥取県のさらなるご発展と、本大会にご参加いただきました皆様、及び関係各位の益々のご健勝を祈念いたしまして、閉会の挨拶といたします。

● 登壇者紹介



一般財団法人
長寿社会開発センター
理事長
高井 康行



スポーツ庁
健康スポーツ課長
中村 宇一

● 大会旗引継ぎ



次期開催地代表挨拶



岐阜県副知事

大森 康宏

こんにちは。今年の「ねりんピックはばたけ鳥取2024」が本当に大盛況だったということを、皆様の充実した笑顔が物語っていると思います。この大会の開催に向けて企画、準備そして運営にご尽力をいただきました平井知事をはじめとします鳥取県のスタッフ、また、ボランティアの皆様も含めて、本当に鳥取県民の皆様にご感謝を申し上げます。ありがとうございました。

さて、次は岐阜の番でございます。実は、2020年に岐阜県でねりんピックを開くということで準備をしてまいりましたが、コロナ禍ということで1年延期し、2021年も、このコロナ禍がやまず「中止」と苦渋の決断をいたしました。しかし、「ぜひ岐阜県で大会を開いてほしい。」という岐阜県民の多くの声をいただいて、もう一度、手を挙げさせていただき、2025年に改めてこのねりんピックを岐阜県で開催をさせていただく運びとなりました。この素晴らしい鳥取大会の次ということで、いささかプレッシャーを感じるところではありますが、しっかりと準備に努めてまいりたいと思っています。

岐阜県には海がありません。したがって、先程、鳥取大会で印象に残ったものとして、会場内の大会参加者の方

から紹介された「いわしのつみれ汁」は残念ながらご提供できません。しかし、輪中地帯の海拔0メートル以下のところから、北アルプスの穂高岳3190メートルまで、非常に多様な土地や文化に恵まれており、飛騨の山、美濃の水を称し、飛山濃水と言われています。

北は有名どころで白川郷、そして飛騨高山や、繰り返しの山になりますが、登山のメッカである北アルプスがございます。そこから、県の中央を流れる清流長良川には、鮎がいます。南へくだっていきますと、織田信長の天下布武の拠点となった金華山と岐阜城、そして東の方に目を向けますと、これがまた歴史の重みがあり、食べものでは五平餅、それから今は、栗きんとんが美味しい季節です。そして、西の方に目を向けますと、1600年の天下分け目の関ヶ原の戦いの舞台があります。

このような本当に多様な文化を持ちます岐阜県全42の市町村で56の種目、そして様々なふれあいということで皆様をお待ちしています。

岐阜大会は来年の10月18日から4日間で、それまではしばしのお別れということになりますが、1年間健康に努められ、競技の上達ということで、トレーニングにも励まれて、1年後に岐阜の地でまた皆で集まって交流を深めていただきたいと思います。

結びに、改めてこの大会の運営にご尽力をいただきました鳥取県の皆様にご感謝を申し上げ、そして本日お集まりの皆様のご健勝とご多幸を祈念し、また岐阜県での再会をお待ちするという決意を表明いたしまして、次回開催県のご挨拶とさせていただきます。

岐阜で会いましょう。どうもありがとうございました。

次期開催地アトラクション(郡上おどり)



グランドフィナーレ



小鉄 和広



佐々木 まゆみ

第1編

第6章



グランドフィナーレ

